G2

第1章 現代日本の諸課題 6

このテーマに関連する本教科書のページ p98,p102

飛び出せ中小企業!!

産業構造の変化と中小企業

日本には500万社以上の中小企業があり，そこでは約4,500万人の人が働いている(いずれも1999年)。そのなかには町工場もあれば，商店街の鮮魚店，クリーニング店もある。創業以来数百年を数える老舗もあれば，独創的な技術・サービスに取りくむベンチャー企業もある。

中小企業は単独で活動することは少なく，地場産業，大企業の下請け，商店街など多くの企業との連携によって経営を維持していることが多い。これらの企業の活動は国民生活に密接に結びついているものが多く，日本経済の基礎を形成する重要な存在として評価されている。

日本の中小企業には，大企業との賃金や労働条件の格差，市場での競争力の弱さなどの問題点が指摘されている。しかしその一方で，世界的にみてもトップレベルの技術力をもつ企業も多数現れている。

小さな世界企業　東京都北区にある清田製作所は従業員数19人の小さな町工場である。しかし，この工場に世界の名だたる半導体メーカーの技術者たちが頻繁に訪れ，社長の清田氏に相談をもちかけている。この会社がつくっているのは，コンタクトプローブ(接触型探針)という製品で，半導体集積回路の製品が正しくつくられているかどうかを検査するときになくてはならない重要な測定器具である。

このプローブの先端は1マイクロメートル以下という細いもので，肉眼で確認することはできない。世界中で清田氏以外にこの製品がつくれるのはイギリスに1人しかいないという。半導体メーカーは，新しい集積回路をつくるときに，コンタクトプローブがつくれるかどうかを清田氏に相談に来る。それは集積度が上がるほど針先間の間隔が細くなるので，従来より細い針がつくれるかどうかが製品開発の鍵を握っているからである。

▲清田製作所の作業所　わずかなスペースにローテクな機械が配置されているが，ここでつくられた製品はハイテク産業で使用されている。

▲自社の製品を前に語る清田氏

▲針金のように細い金属の管　針金を通して管の中を検査する。

▲清田製作所でつくられているコンタクトプローブの部材　初期段階のものに比べて小さく細くなり技術が高まっている。

売上高営業利益率別の企業割合(『中小企業白書』)
小規模企業は従業者20人以下，中小企業は小規模企業を除く従業者300人以下の製造業。1999年調査。中小企業のなかには高収益を挙げるところも少なくない。

製造業の事業所数(『中小企業白書』)

産業構造の変化にたくみに適応　清田氏は小さなプレス工場を経営しながら時代の変化に敏感に対応してさまざまなものをつくってきた。彼がこれまでに手がけた製品をみると，ハーモニカ(雑貨)，カメラの露出計やレコード針(精密機器)，半導体検査針(電子機器)とそのときどきの産業構造の変化に柔軟に対応しながら企業を変化させてきたことがわかる。日本の中小企業のなかには清田氏と同じように，産業構造の変化にうまく適応しながら，新分野に進出し，かつ技術力を向上させてきた企業が多い。日本の製造業は，こうした中小企業で働く人々のたゆまぬ努力によって支えられてきたのである。

中小企業政策の転換　中小企業はこれまで大企業にくらべて弱者としてとらえられ，政府もこうした格差の是正を政策の柱にしてきた。しかし清田氏の例をみても明らかなように，多くの中小企業はみずからの力で経済の変化に対応し，その姿を変えながらレベルを向上させてきた。一方，近年の経済の停滞などにより新規開業をする企業が減少し，企業数が全体として減ってきている。このような中小企業を取り巻く環境変化を踏まえて，政府は1999年に中小企業基本法を改正し，新規開業の促進や成長性のある企業を伸ばす政策に転換している。

課題と考察

1 地域の中小企業のデータを調べよう。
自分たちが暮らす市区町村などの行政機関に行って，その地域の中小企業の現状について調べてみよう。調査する場合の項目としては，業種ごとの企業数，従業者数，年間の売上高などがある。それらのデータを過去とくらべてどのように変化しているかを考察することも必要である。

2 ユニークな企業を探そう。
自治体や商工会議所に行って，その地域で特徴ある経営をおこなっている企業を紹介してもらい，そこで下記のような質問をしてみよう。
①創立年と創業者の名前，②おもな製品(過去と現在)，③おもな顧客(取引先)，④同業他社の数とその企業の業界内の地位，⑤その企業の強さはどこにあるのか，など。

174　現代日本の諸課題

高等学校 公民科 文部科学省検定済教科書 35・清水・政経010

高等学校 現代 政治・経済

現代をみる力　あしたを拓く力

清水書院

清田製作所は、創業からちょうど 50 年を迎えた 2014 年 5 月 31 日に製造事業を終了致しましたが、その翌日に清田の製造部門の従業員と設備が製造移管先会社に移り、継続して「清田プローブ」の製造を始めております。清田の技術はこれからも「清田プローブ」としてエレクトロニクスの発展に貢献できるよう願っております。　25